

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical psychology						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	富永 明子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	臨床心理学の基礎理論を学ぶことを通して、人のこころのしくみ、およびこころの問題について理解する。さらに、代表的な心理アセスメント、心理療法について学習し、臨床心理学 的な支援の具体的方法について知り、理解する。実践的プログラムを通して理解を深める。また、卒業後の現場において臨床心理学を活かしていけるために、他者とのかかわり や自分自身についての思考・感情・言動をふりかえり、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人格、発達理論を列挙できる。また、それぞれについて概説できる。	
	○	○				心理アセスメント、心理療法を列挙できる。また、それぞれについて概説できる。	
		○				臨床心理の基礎的な技法について実践することができる。	
		○		○		ワークを通して自己認識を深め、他者視点について考え態度に反映することができる。	
			○	○		他者とのかかわりや自分自身について振り返り、理解する視点を持つことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・ナカシマ出版「心とかかわる臨床心理」基礎・実際・方法 川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著 中央法規出版「はじめて学ぶ人の臨床心理学」杉原一昭監修 参考文献:東京図書「自己主張トレーニング」ロバート・E・アルベルティ、マイケル・L・エモンズ(著)、						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業の概要、臨床心理学とは何か			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	2	人格理論 精神分析理論、分析的心理学、自己理論、自己愛理論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	3	発達理論 分離-個体化理論、対象関係論、心理・社会的発達理論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	4	心理アセスメント 情報収集と整理、発達検査、知能検査、人格検査			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	5	心理療法① 基本的態度、クライアント中心療法 精神分析療法、分析的心理学療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	6	心理療法② 遊戯療法、芸術療法、森田療法、家族療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	7	心理療法③ 行動療法、認知行動療法、自律訓練法、集団心理療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	8	心理アセスメントの実際-質問紙法、投影法			教科書をもとに予習し、授業内容を振り返って復習する。		
	9	心理療法の実際①-カウンセリング、集団心理療法			教科書をもとに予習し、授業内容を振り返って復習する。		
	10	心理療法の実際②-認知行動療法、描画療法			教科書をもとに予習し、授業内容を振り返って復習する。		
	11	心理療法の実際③-芸術療法(コラージュ)			教科書をもとに予習し、授業内容を振り返って復習する。		
	12	自己尊重ワーク、傾聴トレーニング			授業内容を復習する。		
	13	アサーティブ・トレーニング① アサーティブネスとは			授業内容を復習する。		
	14	アサーティブ・トレーニング② ロールプレイによるトレーニング			授業内容を復習する。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎		○	○	100%
履修上の注意							

科目名	失語症の展開						
科目名(英)	Deployment of Aphasia						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	高津原 直樹		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院で言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>失語症に関連する検査、評価、訓練について実技演習を通して学び会得する。</li> <li>主に標準失語症検査(SLTA)の理論、手技、解釈について学ぶ。</li> </ul>						
授業形式	講義: △	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各種失語症検査の対象、目的、手技、分析方法について説明できる。	
			○	○		標準失語症検査(SLTA)をマニュアルを見ずに実施できる。	
	○	○				検査結果から失語症者の問題点を抽出し、訓練目標・計画を立案できる。	
	○	○				代表的な失語症掘り下げ検査について理解し、対象と検査目的を列挙できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)医学書院 標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版</li> <li>・(株)新興医学出版社 標準失語症検査(SLTA) マニュアル</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	失語症の評価・診断、具体的な検査方法			失語症検査について、種類とおおまかな内容について教科書を読んでおく(60分)、復習用Forms(30分)		
	2	標準失語症検査の構成と目的、手技と手法			SLTAマニュアル指定ページを読んでおく(60分) 復習用Forms(30分)		
	3	SLTA I. 聴く			SLTA I. 『聴く』の項目の検査練習(90分) 復習用Forms(30分)		
	4	SLTA II. 話す			SLTA II. 『話す』の項目の検査練習(90分) 復習用Forms(30分)		
	5	SLTA III. 読む			SLTA III. 『読む』の項目の検査練習(90分) 復習用Forms(30分)		
	6	SLTA IV. 書く、V. 計算			SLTA IV. 『書く』、V. 『計算』の項目の検査練習(90分)、復習用Forms(30分)		
	7	検査結果解釈:問題点の抽出、訓練目標の設定、訓練計画の立案 小テスト			SLTA全般の検査練習(90分)		
	8	WAB失語症検査、SALA失語症検査			SLTA全般の検査練習(60分) 復習用Forms(30分)		
	9	失語症掘り下げ検査(重度失語症検査、TOKEN TEST)			SLTA全般の検査練習(60分) 復習用Forms(30分)		
	10	失語症掘り下げ検査:失語症語彙検査、失語症構文検査			SLTA全般の検査練習(60分) 復習用Forms(30分)		
	11	コミュニケーション能力の評価と訓練			SLTA全般の検査練習(60分) 復習用Forms(30分)		
	12	失語症治療の理論と技法			SLTA全般の検査練習(60分) 復習用Forms(30分)		
	13	失語症の問題点の抽出、目標設定、訓練プログラム立案			SLTA全般の検査練習(60分) 復習用Forms(30分)		
	14	授業内評価①:SLTA実技試験			失語症者の社会参加についてのレポート(60分) 筆記試験に向けた復習(60分以上)		
15	授業内評価②:筆記試験			実習と国家試験に向けた総復習(60分以上)			
評価方法	1)宿題として計12回の繰り返し復習フォームを実施する。2)第7回に小テストを実施する。3)第14回に授業内評価としてSLTAの実技試験を実施する。4)第14回にレポートを課す。5)第15回に授業内評価として筆記試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				40%
	実技試験			○	○		30%
	宿題		○		○		10%
	小テスト	○	○				10%
レポート	○	○		○		10%	
履修上の注意							

科目名	高次脳機能障害の展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	東納 嘉寛		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	高次脳機能障害の検査や訓練立案ができる。症例レポートの作成法を学び、実習に生かすことができる。国家試験に向け知識の定着を図る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				訓練立案について説明できる。	
	○	○				検査について説明・実施できる。	
	○	○				国家試験問題を解くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院 藤田郁代・高次脳機能障害学 第2版. 文光堂. 網本 和 PT・OTのための高次脳機能障害ABC						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	WAIS-III 概要			テキストによる30分程度の予習と復習		
	2	WAIS-III 解釈/実技			テキストによる30分程度の予習と復習		
	3	遂行機能障害の検査(BADS、WCST、FAB、等)			テキストによる30分程度の予習と復習		
	4	失行の検査(WABの一部、SPTA)			テキストによる30分程度の予習と復習		
	5	失認の検査(VPTA)			テキストによる30分程度の予習と復習		
	6	高次脳機能障害の訓練 各論 注意障害の訓練、記憶障害の訓練			テキストによる30分程度の予習と復習		
	7	高次脳機能障害の訓練 各論 失行・失認の訓練			テキストによる30分程度の予習と復習		
	8	高次脳機能障害の訓練 各論 半側空間無視の訓練			テキストによる30分程度の予習と復習		
	9	高次脳機能障害の訓練 各論 遂行機能障害の訓練			テキストによる30分程度の予習と復習		
	10	高次脳機能障害の訓練 各論 認知症の訓練			テキストによる30分程度の予習と復習		
	11	全体像に基づいた治療(訓練・指導・支援)の優先順位、プロセス、家族・他職種・地域社会等との連携と医療福祉制度・サービス			テキストによる30分程度の予習と復習		
	12	治療効果の測定法、サマリ作成、(症例)			テキストによる30分程度の予習と復習		
	13	治療のカンファレンス報告、結果のフィードバック(症例)			テキストによる30分程度の予習と復習		
	14	STAD スクリーニング検査 実施方法			テキストによる30分程度の予習と復習		
15	まとめ			テキストによる30分程度の予習と復習			
評価方法	成績処理方法: 1.小テスト、2.定期試験 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				60%
	小テスト	○	○				40%
履修上の注意							

科目名	脳性麻痺・後天性障害の展開										
科目名(英)											
単位数	1	時間数	15時間	担当者	結城 ルミ子						
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	言語聴覚士として病院施設にて勤務						
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年										
授業概要	脳性麻痺・後天性言語発達障害に対する言語聴覚療法の評価診断および指導・支援に対する知識・技能・態度を修得する。										
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:	<input type="radio"/>	実習:		実技:		※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="checkbox"/>		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	<input type="radio"/>					脳性麻痺・後天性言語発達障害の指導・支援における言語聴覚士の役割を説明できる。					
	<input type="radio"/>					脳性麻痺・後天性言語発達障害の評価診断の原則・手続きを説明できる。					
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		収集する情報の種類と収集方法を説明し、評価および指導・支援を模擬的に実施できる。					
テキスト・教材 参考図書	・建帛社 言語聴覚療法シリーズ12 言語発達障害 3 改訂										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	脳性麻痺の定義と発達を阻害する要因					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	2	脳性麻痺の言語・コミュニケーション評価診断					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	3	脳性麻痺の評価診断演習(バイタル・摂食嚥下・感覚面)					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	4	脳性麻痺の評価診断演習(行動評価・発達評価・まとめ)					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	5	後天性言語発達障害の定義と発達を阻害する要因					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	6	後天性言語発達障害の評価診断演習					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	7	脳性麻痺児・後天性言語発達障害児に対する指導・支援演習					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	8	まとめ					講座を振り返り、試験対策を行う(60分)				
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
15											
評価方法			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験		◎	◎				100%			
	小テスト										
	宿題・レポート										
	発表・作品										
履修上の注意											

科目名	ASD・ADHDの展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	福島 志津		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	小児施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科(昼夜間部) 2年						
授業概要	ASD・ADHDに対する言語聴覚療法の評価診断、および言語治療(指導・支援)に関する知識、技能、態度を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○			ASD・ADHD児に対する言語治療における言語聴覚士の役割を説明できる		
	○	○		○	ASD・ADHD児に対し、言語聴覚療法の評価診断の基本概念と方法を説明し、模擬的に実施できる		
テキスト・教材 参考図書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学(医学書院) 言語聴覚士ドリルプラス 言語発達障害(診断と治療社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	AS児の評価診断と言語治療(指導・支援)とは			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	2	評価診断(評価診断の原則、手続き、情報収集の方法)			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	3	評価診断(認知行動面、環境面の情報収集)			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	4	ASDの評価診断支援の概要			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	5	M-CHAT			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	6	ADI-R、ADOS2、PARS-TR			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	7	PEP-3、CARS自閉症評定尺度			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	8	ASD単元テストと振り返り			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	9	ADHDの評価診断支援の概要			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	10	行動療法、感覚プロフィール			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	11	ADHD-TR、ADHDの薬物療法			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	12	ASD・ADHD・LD・DCDなどの合併例について			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	13	ADHD単元テストと振り返り			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	14	ケーススタディ(模擬症例)			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
15	授業内評価と振り返り			講座全体を振り返り、試験対策を行う。(60分)			
評価方法	(1)小テストを10回実施する。(2)単元テストを2回実施する。(3)定期試験 (4)振り返り課題 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	小テスト	○	◎				30%
	単元テスト	○	◎				20%
振り返り課題		◎		○		10	
履修上の注意							

科目名	LD・SLI・環境要因の展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	45時間	担当者	永野 淳子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	小児施設にて心理担当職員として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	LD・SLI・環境要因に対する言語聴覚療法の評価診断および言語治療(指導・支援)に関する知識・技能・態度を修得する。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				LD・SLI・環境要因への言語治療(指導・支援)における言語聴覚士の役割を説明できる	
	○		○	○		LD・SLI・環境要因に対し、言語聴覚療法の評価診断の基本概念と方法を説明し、模擬的に実施できる	
テキスト・教材 参考図書	イラスト図解 発達障害の子どもの心と行動がわかる本						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	LDの評価診断、言語治療			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	2	環境要因による言語発達障害の評価診断言語治療			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	3	評価診断の原則、手続き			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	4	情報収集の種類と収集方法と環境面の情報収集			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	5	認知・行動面の情報収集			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	6	LDの評価診断支援① ディコーディングの評価			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	7	LDの評価診断支援② 視覚情報処理能力の評価			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	8	LDの評価診断支援③ 読解力の評価			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	9	LDの評価診断支援④ 音韻意識の評価			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	10	LDの評価診断支援⑤ 書字能力の評価			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	11	LDの評価診断支援⑥ LDの診断・支援内容のまとめ			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	12	SLIの評価診断支援① 知的障害との鑑別方法(知能検査)			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	13	SLIの評価診断支援② 認知発達の評価(知能検査)			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	14	SLIの評価診断支援③ 認知発達の評価(知能検査)			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	15	SLIの評価診断支援④ 認知発達の評価(知能検査)			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	16	SLIの評価診断支援⑤ 認知発達の評価(発達検査)			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	17	環境要因による言語発達障害の評価診断支援① 愛着障害			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	18	環境要因による言語発達障害の評価診断支援② 児童虐待			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	19	ケーススタディ① 情報収集			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	20	ケーススタディ② 評価診断			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	21	ケーススタディ③ 支援計画立案、発表			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
	22	まとめ① 国試過去問の解説を作る			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)		
23	まとめ② 定期試験対策用まとめシートの作成			該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)			
評価方法	(1)宿題・レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○				20%
発表・作品							
履修上の注意							

科目名	音声障害の理解と展開						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	山口 優実		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	音声治療に携わる言語聴覚士に必要な条件(臨床に対する考え方、耳鼻咽喉科その他 の医師との連携、言語聴覚士としての能力)を理解する。 音声治療の実際について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				喉頭の解剖においてそれぞれの部位の名称と働きを説明できる。	
	○	○				呼吸の生理と発声のメカニズムについて説明することができる。	
	○	○				音声障害疾患について発生原因および症状について説明することができる。	
	○	○				音声の評価を遂行することができる。	
	○	○				音声評価診断を行いその症状にあった治療を選び実施することができる	
テキスト・教材 参考図書	建帛社 言語聴覚療法シリーズ「改定 音声障害」医歯薬出版(株) 新編 声の検査法						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	声の特性と機能および調節			配布プリントを使用して復習しておく		
	2	声の特性と機能および調節			配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく		
	3	音声障害の発生メカニズムと分類			配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく		
	4	音声障害の発生メカニズムと分類			配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく		
	5	音声の検査・評価・診断			配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく		
	6	音声の検査・評価・診断			配布プリントおよび教科書について復習しておく		
	7	音声障害の治療			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	8	音声障害の治療			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	9	無喉頭音声			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	10	無喉頭音声			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	11	気管切開患者への対応			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	12	気管切開患者への対応			配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく		
	13	音声障害者の社会復帰			症例レポートの内容について調べ深めておく		
	14	症例検討			症例レポートの内容について調べ深めておく		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	器質性構音障害の理解と展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	城丸 みさと		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	小児の言語障害で大きな比重を占める構音障害のうち、器質性構音障害(主に口蓋裂)について学ぶ。器質性構音障害の基礎知識、具体的な検査、指導訓練の基礎を身に付けることを目標とする。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				構音障害の種類について概要を説明し、構音検査が実施できる	
	○	○				器質性構音障害における構音障害の特徴について説明できる	
	○	○				口蓋裂の病態について説明することができる	
	○	○				口蓋裂による構音障害の発現機序について説明することができる	
	○					器質性構音障害の検査後、指導、訓練について基本的な立案と実践ができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書 :医学書院 「口蓋裂の言語治療」 岡崎恵子編著 医歯薬出版 「言語聴覚士テキスト」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	基礎知識:小児の構音障害概説と音声表記復習			構音表記を復習して講義に臨む		
	2	基礎知識:未熟構音と異常構音—その1			構音表記を復習して講義に臨む		
	3	基礎知識:異常構音の種類と特徴—その2			構音表記を復習して講義に臨む		
	4	口蓋裂の発生と解剖			構音表記を復習して講義に臨む		
	5	口蓋裂の基礎知識:手術と術後の対応			構音表記を復習して講義に臨む		
	6	検査:発声発語器官に関する検査:口腔内視診(演習)			構音表記を復習して講義に臨む		
	7	鼻咽腔閉鎖機能に関する検査			構音表記を復習して講義に臨む		
	8	指導・訓練:音の獲得の段階			構音表記を復習して講義に臨む		
	9	指導・訓練:会話への般化まで			構音表記を復習して講義に臨む		
	10	構音訓練・検査のまとめ(演習)			構音表記を復習して講義に臨む		
	11	鼻咽腔閉鎖機能不全に対応する2次的対応			構音表記を復習して講義に臨む		
	12	口蓋裂治療パノラマ(復習)とその他の器質的構音障害			構音表記を復習して講義に臨む		
	13	その他の器質的構音障害(口腔・中咽頭癌など)			構音表記を復習して講義に臨む		
	14	国家試験の傾向と対策			まとめの内容を復習し、定期試験対策としてまとめる		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	○	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎				10%
発表・作品							
履修上の注意							



科目名	摂食嚥下障害の展開						
科目名(英)	Development of dysphagia						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	八木 智大		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	摂食嚥下障害の理解で学び得た基本的な概念を基に摂食嚥下の問題点を抽出できるようになります。治療計画を立案し訓練を提供できる知識の獲得を目指します。診療技術だけではなく多職種との連携や社会資源などの知識を様々な症例を通して学び、模擬カンファレンスで評価結果や方針を報告することができるようになります。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				摂食嚥下の問題点を抽出することができる。	
	○	○				摂食嚥下に対するリハビリテーション計画を立案することができる。	
	○	○				摂食嚥下障害に対して治療的アプローチ以外の方法を検討することができる。	
	○	○				摂食嚥下障害に対する基本的な訓練技法を口頭で説明することができる。	
	○		○			自らの考えを模擬的カンファレンスや個別レポートの中で表現することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:藤島一郎ほか「脳卒中中の摂食嚥下障害 第3版 Web動画付き」医歯薬出版株式会社、2017 聖隷嚥下チーム「嚥下障害ポケットマニュアル 第3版」医歯薬出版株式会社、2018						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	訓練の概要を知る/口腔ケアと補綴治療の重要性を知る。			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	2	食事場面における様々な姿勢調整の効果を説明できる。～食べる姿勢を考える～			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	3	嚥下食や代替栄養の利点や欠点を説明できるようになる。～食べやすいもの、食べにくいものを食べる～			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	4	訓練法について名称と効果を説明できる。～間接的嚥下訓練～			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	5	訓練法について名称と効果を説明できる。～直接的嚥下訓練～			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	6	訓練以外のアプローチ方法を含め患者に対するアプローチについて整理する。～状況に応じたSTとしての対応を説明できる～			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	7	外科的治療とカニューレの種類、薬物療法について説明できる。			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	8	中間テストの実施と様々な模擬症例について考える授業。			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	9	実践編① ～MASAを使用し評価する～			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	10	実践編② ～MASAの結果から訓練を立案する～			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	11	実践編③ ～訓練方法の口頭試問～			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	12	実践編④ 模擬症例情報を基にして模擬カンファレンス			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	13	摂食嚥下障害の倫理について考える授業。			教科書の該当部分を復習する(30分)		
	14	摂食嚥下と介護予防/国家試験に挑む!			教科書の該当部分を復習する(30分)		
15	授業内評価			教科書の該当部分を復習する(30分)			
評価方法	(1)授業の中で小テストを6回実施する。(小テストは前回の授業内容について、中間テストは小テストの内容から実施)。(2)レポートの提出を評価対象とする。(3)定期試験(筆記・実技)を実施。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎		○		50%
	中間テスト	◎	◎		○		30%
	小テスト	◎	◎		○		10%
	提出物	◎	◎		○		10%
履修上の注意							

科目名	発声発語・嚥下障害の検査						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30	担当者	灘吉享子/八木智大		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	発声発語・嚥下障害の理解と展開の講義を通して、学んできた内容をベースに、問題点の抽出から、それぞれの診断にいたる経緯を体験し、臨床現場での一連の流れ理解できるようにします。 基本的な知識や技術をより深めるために、調べ学習の繰り返しを体験し、発表に結び付けることで、理解を深めるようにしていきます。						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習： ○	実技： ○	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○	△		運動障害性構音障害に対する基本的な評価技法を実施することができる。	
		○	○	△		運動障害性構音障害に対する基本的な訓練技法を実施することができる。	
		○	○	△		摂食嚥下障害に対する基本的な評価技法を実施することができる。	
		○	○	△		摂食嚥下障害に対する基本的な訓練技法を実施することができる。	
	○	○	△		症例に応じた評価方法を選択し対応することができる。		
テキスト・教材 参考図書	2年生前期までに使用した教科書にて行います。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	発声発語器管検査と摂食・嚥下検査の関連について			これまでの内容について事前に教科書や資料を読み込んでおく(1時間)		
	2	タイプごとの視点の絞り方～検査対応			本日の内容を掘り下げるために、用語などの調べ学習をする(1時間)		
	3	それぞれの基本的な訓練技法について確認			本日の内容を掘り下げるために、用語などの調べ学習をする(1時間)		
	4	タイプごとの訓練立案～訓練実施			本日の内容を掘り下げるために、用語などの調べ学習をする(1時間)		
	5	タイプごとの訓練立案～訓練実施			本日の内容を掘り下げるために、用語などの調べ学習をする(1時間)		
	6	タイプごとの訓練立案～訓練実施			本日の内容を掘り下げるために、用語などの調べ学習をする(1時間)		
	7	症例検討：診断～立案について発表			事前に発表資料の作成と内容の確認をする(2時間)		
	8	観察所見と口腔ケア			クラスメイトと共に実技演習を実施しておく。用語などの調べ学習を行なう(1時間)		
	9	摂食嚥下機能のスクリーニング検査			クラスメイトと共に実技演習を実施しておく。用語などの調べ学習を行なう(1時間)		
	10	症例に応じた検査対応			クラスメイトと共に実技演習を実施しておく。用語などの調べ学習を行なう(1時間)		
	11	間接的嚥下訓練① ～要素別練習～			クラスメイトと共に実技演習を実施しておく。用語などの調べ学習を行なう(1時間)		
	12	間接的嚥下訓練② ～要素別練習～			クラスメイトと共に実技演習を実施しておく。用語などの調べ学習を行なう(1時間)		
	13	直接的嚥下訓練 ～課題指向的練習に向けた体位調整～			クラスメイトと共に実技演習を実施しておく。用語などの調べ学習を行なう(1時間)		
	14	症例に応じた訓練対応			クラスメイトと共に実技演習を実施しておく。用語などの調べ学習を行なう(1時間)		
15	授業内評価			当科目で学び得た知識を復習しておく。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技試験	◎	○	◎			80%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
	発表	○			◎		10%
履修上の注意							

科目名	吃音の理解と展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	山口 真梨恵		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	小児施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	①コミュニケーション支援のための考え方、概念を学ぶ。 ②コミュニケーション障害の改善および能力維持、あるいは能力の獲得および発達促進のための様々な代替コミュニケーション手段について概説する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				吃音児者のおかれている状況について考えることができる	
	○					言語聴覚士としての援助の在り方を理解し説明することができる	
		○	○	○		吃音とはなにかを理解し、情報収集(検査含む)、評価および指導・訓練など臨床に必要な基本的知識技能を身につけている	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	吃音流暢性障害の基本的知識			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	2	吃音のある子どもの評価①			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	3	吃音のある子どもの評価②			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	4	吃音のある子どもの支援(指導について)			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	5	吃音のある子どもの支援(環境調整)			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	6	吃音のある子どもの支援(吃音症状への対応)			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	7	吃音に対する感情や態度への対応			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	8	セルフヘルプグループについて			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①定期試験を実施する②授業内で小テストを実施する③テーマに沿ったレポート作成をする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	拡大代替コミュニケーション手段						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	山口 真梨恵		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	小児施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	①コミュニケーション支援のための考え方、概念を学ぶ。 ②コミュニケーション障害の改善および能力維持、あるいは能力の獲得および発達促進のための様々な代替コミュニケーション手段について概説する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				コミュニケーション障害者児者にとってのAACの必要性について本質を説明できる	
	○	○				コミュニケーションエイドについて基礎的な方法を説明できる	
	○	○				コミュニケーションエイド利用の実際について症例を通して活用法を選択することができる	
		○	○			基本的なコミュニケーションエイドの操作が行えるようになる	
○	○				スイッチやブザーなど基本的なAACを作成し実際に使用できる		
テキスト・教材 参考図書	・協同医書出版社 言語聴覚士のためのAAC入門 ・エータックラボ AAC入門						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	AACとは、AACの歴史と概念、障害・症状別の援助方法			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	2	非エイド・コミュニケーション			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	3	ローテク・コミュニケーション・エイド			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	4	ハイテク・コミュニケーション・エイド			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	5	コミュニケーションエイドを実際に使用する。			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	6	臨床の実際 小児・成人			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	7	活用できる福祉制度			本日の授業範囲について教科書を復習する		
	8	授業内評価(口頭試問)			これまでの内容を復習しておく		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	1)定期試験(筆記実技)は実施せず、授業中の取り組みと口頭試問で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表		○		○		40%
	口頭試問	○	○				60%
履修上の注意							

科目名	小児聴覚障害の支援						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	城丸 みさと		
実施年度	2022	実施時期	前期	担当者実務経験	言語聴覚士として施設に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	聴覚障害に対する言語聴覚療法の評価診断、言語治療に関する知識・技術・態度を修得する。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				聴覚障害と関連障害における言語聴覚療法の評価診断の基本概念と方法を説明できる。	
			○	○		聴覚障害と関連障害における言語聴覚療法の評価診断を模擬的に実施できる。	
	○	○				聴覚障害の言語治療の基本概念と方法を説明できる。	
			○	○		聴覚障害の言語治療の基本概念と方法を模擬的に実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	医学書院 標準言語聴覚障害 聴覚障害学第二版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	聴力検査の選択				内容をA4用紙一枚にまとめること	
	2	新生児聴覚スクリーニング				内容をA4用紙一枚にまとめ、実技練習を行い、観察の不明点を上げておくこと。	
	3	BOAとCOR				内容をA4用紙一枚にまとめ、実技練習を行い、観察の不明点を上げておくこと。	
	4	ピープショウ検査と遊戯聴力検査				内容をA4用紙一枚にまとめ、実技練習を行い、観察の不明点を上げておくこと。	
	5	検査結果とその他の情報の統合と解釈				内容をまとめ、ケーススタディの準備を進めること	
	6	聴覚補償機器の活用				内容をA4用紙一枚にまとめること	
	7	聴能訓練				内容をA4用紙一枚にまとめること	
	8	聴覚障害の支援の原則				指導・訓練・支援の原則とプロセスをまとめる	
	9	言語治療計画立案				ケーススタディ準備をしておく	
	10	ケーススタディ計画				他のグループの発表内容をまとめる	
	11	言語治療教材作成				ケーススタディ準備をしておく	
	12	ケーススタディ支援				他のグループの発表内容をまとめる	
	13	言語治療記録				ケーススタディ準備をしておく	
	14	ケーススタディ継続				他のグループの発表内容をまとめる	
15	国家試験対策				国家試験過去問題、聴覚障害分野の解説を熟読し、理解できるところとできない所を明確にしておく		
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト						
	宿題・レポート			○	○		30%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	成人聴覚障害の支援						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	星子 隆裕		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	聴覚障害に対する言語聴覚療法の評価診断および言語治療に関する知識・技能・態度を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					成人聴覚障害の支援方法について概説することができる	
	○					補聴器、人工内耳の適応例を挙げることができる	
	○					補聴器の調整について概説できる	
			○			補聴器を模擬的に調整できる	
	○	○				聴覚リハビリテーションの計画を立て模擬的に実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院2020 藤田郁代(監)「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	聴覚リハビリテーション概論			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	2	聴覚障害の言語治療の基本理念			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	3	コミュニケーションモードの選択			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	4	聴覚補償機器の装用理論			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	5	聴覚補償機器の装用手順と調整			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	6	聴覚補償機器の効果測定 と単元テスト			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	7	ボトムアップ聴能訓練			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	8	追唱法による聴能訓練			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	9	コミュニケーションスキルトレーニング			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	10	前庭機能のリハビリテーション と単元テスト			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	11	障害の全体像、環境条件			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	12	統合と分析、治療計画の作成			評価サマリを作成する(1時間)		
	13	実技演習			他のグループの演習から振り返りを作成する。		
	14	ケースカンファレンス			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
15	単元テストと総合試験			講座全体を振り返り、繰り返し学習する(1時間)			
評価方法	(1)単元テストを実施する (2)実技演習はルーブリック評価を行う。(3)質問や取り組みを評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	単元テスト	○	○				60%
	小テスト						
	実技演習	○			○		30%
	質問・取り組み				○	○	10%
履修上の注意							

科目名	補聴器・人工内耳・視聴覚二重障害						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30	担当者	竹松 知紀・星子 隆裕		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	補聴器メーカーおよび病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	聴覚障害および関連障害に関する基本的概念と知識を修得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					視聴覚二重障害のタイプを列挙しコミュニケーションモダリティを選択できる。	
	○					視聴覚二重障害を持った方の困難さの具体的事例を知る。	
	○					聴覚補償機器に関する基本的概念と方法を説明できる。	
			○			聴覚補償機器の装用手順を説明し、模擬的に実施できる。	
○					情報補償、補聴援助、支援システムについて説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	知ってください盲ろうについて、配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	補聴器の構造と機能			授業を振り返り、A4用紙一枚にマインドマップを作成する。		
	2	人工内耳・人工聴覚器の構造と機能			授業を振り返り、A4用紙一枚にマインドマップを作成する。		
	3	補聴器調整の理論			授業を振り返り、A4用紙一枚にマインドマップを作成する。		
	4	補聴器調整の演習			授業を振り返り、A4用紙一枚にマインドマップを作成する。		
	5	人工内耳・人工聴覚器の適合基準とマッピング理論			授業を振り返り、A4用紙一枚にマインドマップを作成する。		
	6	補聴器期装用後の評価			授業を振り返り、A4用紙一枚にマインドマップを作成する。		
	7	聴覚補償			授業を振り返り、A4用紙一枚にマインドマップを作成する。		
	8	視聴覚二重障害の総論			授業を振り返り、A4用紙一枚にマインドマップを作成する。		
	9	ビデオ教材学習「社会に生きる」			授業を振り返り、A4用紙一枚にマインドマップを作成する。		
	10	ビデオ教材学習「盲ろうとともに」			授業を振り返り、A4用紙一枚にマインドマップを作成する。		
	11	卒業生講話			授業を振り返り、A4用紙一枚にマインドマップを作成する。		
	12	聴覚障害支援者の講話			フィールドワークのテーマを決め、計画書を作成する。		
	13	フィールドワーク			フィールドワーク報告会に向けまとめる		
	14	フィールドワーク報告会			他のグループの発表をまとめる		
15	定期試験と振り返り			講座全体を振りかえる			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト						
	宿題・レポート				○		30%
	質問・取り組み						
履修上の注意	聴覚系の他の講座資料を振り返りながら受講してもらいたい。 国家試験過去問題から関連問題を探し、開講期間に全問理解すること。						